
【一発ネタ】東方現世録

リュトルフィア

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

【一発ネタ】東方現世録

【NZコード】

N8029M

【作者名】

リュトルフィア

【あらすじ】

魔理沙の子供がドアを蹴破り階段を下へ加速しながら降りる

(前書き)

短いです、とても。

自携帯小説サイトで執筆に行き詰まっている最中に考え付いたネタです。

「……ふあ、んん」

窓から差し込む光が眩しくて、寝返りを打つ。

「……んう？」

待てよ私、今ちょっとおかしいぞ？

私の寝ているベッドに窓から光が差し込むのは大体9～10時頃。いや、卒業式も1ヶ月ほど前に終わったから別に高校の入学式の日まではどれだけ寝ても問題ない訳で……

入学式って……今日じゃん！？

布団を蹴り飛ばし、目覚まし時計を引っ掻む。針の指す時間を見てみれば9時43分。

Q・入学式は何時からですか？
A・9時からです（はあと）

「うわかあああああああああああああああああああああん！……」

部屋のドアを魔力で強化した蹴りで吹き飛ばし、階段を本来踏まない垂直の部分に足を掛けて下へと加速しながら降りる。

ビバああああん！

「お母さんー なんで起こしてくれなかつたの！？」

リビングのドアを開け放ち、テーブルに腰掛けて魔導書を読みふける金髪に詰め寄る。

「なんだよ亞杜奈、朝っぱらからひみこబ」

胡乱な目で私を見つめる、黙つていれば町内でも指折りの美人だといわれるこの人は、霧雨魔理沙。私こと霧雨亞杜奈の母親だ。

……いや、悠長に説明している場合じやなくて…

「なんで起こしててくれなかつたのよー 完全に入学式に遅刻じやないー！」

「……おね

「おお、じやなああああいー！」

バーンとテーブルを叩く。

「おこおこ亞杜奈、ちよつと落ち着け。話はそれからだ」

当然私はそんな簡単に落ち着ける訳もなく。

「落ち着ける訳がああああ、ちょっと待つて待つて今落ち着くから待つて！」

目の前に八卦炉を突きつけられて、即座に停戦協定を持ちかける。流石に冷静さを失った私でも、口頭からアリスさんやらを吹き飛ばしている魔砲の餌食にされるとわかれれば冷静にならざるをえない。というか、この人は本気で娘である私にも魔砲を撃つてくる。今もきっと、私が冷静になれなかつたら撃つつもりだったに違いない。そんな事を考えて震えていると、お母さんはゆっくりため息を吐きながら私に何かを投げつけてくる。

「ほれ

「つぶつ

油断していたので顔面に叩きつけられたソレをなんとかキャッチし、広げてみると……カレンダーだった。

家のカレンダーは日付のところにキノコマーク（……もうちょっとと他にデザインはないのかと思ってしまう）が浮き上がるようになつており、今日の日付である13日のところにキノコマークが……

「……あれ？」

なかつた。

ちなみにキノコマークはその前日の12日のところに浮かび上がっていた。

「入学式は明日だぜ？」

そんなおゆさんの話を見き、私はあまりの自分の間抜けさに脱力してその場に座り込んだ

「ついで夢を見たのよ」

「夢落ちー?..」

続かない

あとがき
なぜ投稿したし俺
多分テスト期間で陰鬱としたものが貯まつてたからだよと書いてみる

(後書き)

このような駄作を見てくださった皆様に感謝を

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8029m/>

【一発ネタ】東方現世録

2011年1月27日13時35分発行